

[GRAPEVINE]

シルクロードのブドウ

元サントリー(株)葡萄栽培研究所長 石井 賢二

はじめに

本誌 (Vol.7 No.1, 1996) に佐藤幹夫氏が『「甲州」のルーツを訪ねて』と題して中国・新疆・和田を訪れて現地のブドウを紹介している。結論として『甲州は龍眼、和田紅の直接実生とは考え難く・・・』とされた。著名品種の先祖に関しては誰もが関心を抱く課題であるが、甲州の先祖が和田紅ではないかと誰が、いつごろから言い出したか詳らかではない。しかし、山梨作物栄養研究会で植原宣紘氏 (甲府市) が講演し (1984)、『和田紅ではないか、新疆に行って調べた』と述べたところから甲州-和田紅の線が出て来たのではなかろうか。

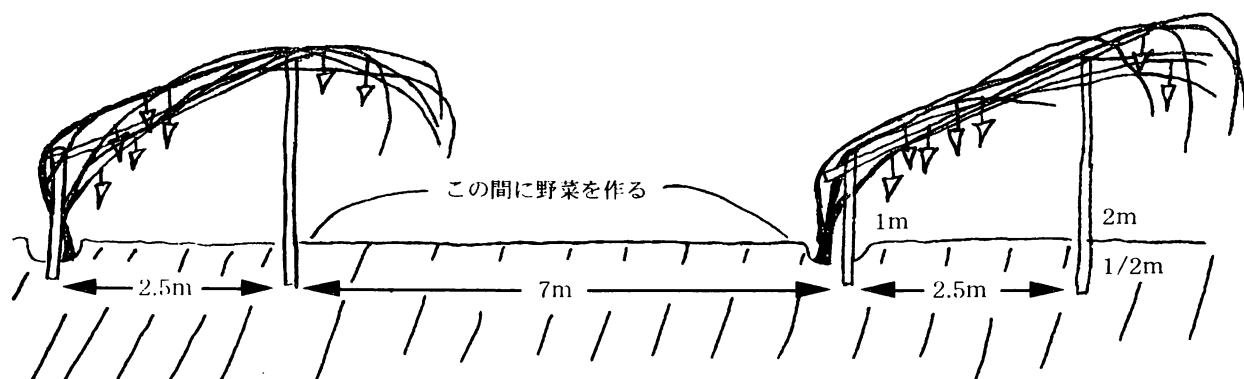
筆者は1985年から新疆に滞在することになり主として石河子市というところを拠点として生活していた。石河子は1955年、人民解放軍を投入して砂漠・湖沼を開拓したところであり、その開拓がもっとも成功した地区でもある。石河子を『軍壘新城都市』と称して誇りにしているくらいだ。その石河子にある葡萄試験站 (日本で言えば試験場) から立派な名簿を見せられた。『日本葡萄最高の先生方一行を迎えた』と自慢した。名簿は二つ折のアート紙で写真入りである。名簿の中の何人かはそれに相応しい人たちであったが、大部分は初めて見る顔写真の人ばかりであった。私には知らない人ばかりとあっていいほどだ。だから現地では『これから数年間滞在して指導をする石井はほんとに葡萄界に明るい人か、葡萄についてあまり知識がない人ではないのか』と噂されるようになった。『ほんとに知人ではないのか』と聞くので『学会でも会ったことがない、論文も見ることがない、だから知らない』と言うと表紙を再々見せた。確かに日本最高のメンバーというように印刷されている。大分あとになって筆者は『これは誇大表現の好きな中国人に対して礼儀上こっ

も誇大表現したのではないか』と思い、次にまた聞かれると『そうだ、そうだ、その人たちは日本で最高の人たちだ、あまり偉いので近寄れなかった私が知らなかっただけだ』と答えるようにした。相手はそれで満足してくれた。

名簿の人たちは苗木商、実際家などのようであったが、このなかのメンバーに上記の植原氏や沢登晴雄氏がいた。沢登氏が訪中団長でありこのときに和田紅を調査している。従って植原氏、沢登氏らが甲州の先祖は和田紅ではないか、と唱えた始まりであろう。和田紅は新疆一帯に植えられており、特に「和田」というところは多い。この品種は甲州に酷似しており佐藤氏の指摘されるように幾つかの系統があるらしい。甲州にも幾つかの系統があることは故土屋長男氏が早くから認めている。筆者は和田紅の観察を毎年行い、醸造も行って来たが、甲州に似ていることは間違い無いのであるが、和田紅が甲州の先祖とする説には納得いかない点がある。しかし、沢登氏一行がたとえ1日だけの調査だったにしろ、和田紅をめざして甲州のルーツ探しをしたことはその炯眼に敬意を表している。しかし、日本葡萄界最高の方々の名簿を思い出すたびに苦笑を禁じ得ない。

新疆のブドウ栽培

新疆のブドウ栽培の形式は垣根式と斜架式があり、最近では垣根式の方が多い。なぜ垣根式に変わりつつあるのか理由は詳らかでない。聞くともっともな点はあるのだがヨーロッパの影響が及んでいるのではないかと推察される。斜架式の株も「扇状」に枝を配置している。畝間が広く4.5m~7mほどあり (第1図)、この間に野菜を間作しているのが普通だ。野菜はキャベツ、ニンジン、ウリなどである。一見するとブドウ園なのか野菜畑なのか分からないほどで現地の栽培者でも『こ



第1図 一般に見られる斜架式棚。(原図)

した方法はよくない、栄養の奪い合いだ』と言うのである。そうは言うが改めるところはない。

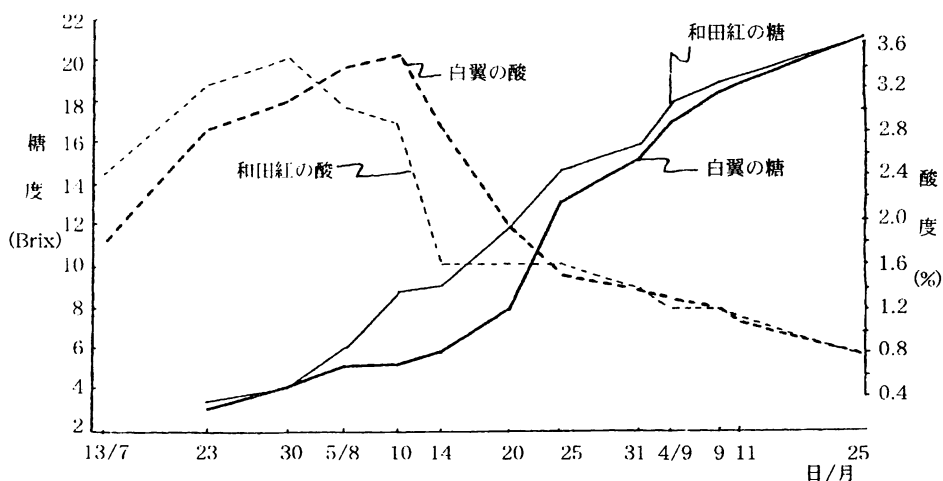
病虫害の発生は殆どないと言っていいが露菌病、白渋病は増加の傾向があり、特に白渋病は警戒を要する。黒痘病、晩腐病もないがウイルス病は方々で見られる。ウイルス罹病株の増加は疑わしい母樹からの穂木採取が原因となっている。

たいていのブドウ園は枝の繁茂が著しく樹勢が強いことを示している。枝と枝が絡まり合って日陰にある果房でも病害に罹っているものはない。ハシュハル、和田紅などの品種はこうし生育状況だ。蔓の誘引作業は数本纏めて縛ってしまう乱暴さだ。また10cmほどの長さの枝に3個の果房が着いていても摘心をする。摘心よりも摘房の方が先ではないかと思ってもその短い枝でさえ果房は完熟する。糖度調査をしていると1週間に2~3度上がることがあって驚く(第2図)。これは晴天続き、地中の水分が充分、枝、葉が頑健なことによるものと思われるが、リースリングが20度を越えてもなかなか22度にならなかった年があった。こうした生育がブドウにとって正常ではないかと考えさせられた。普通年気候下では乾燥、高温、晴天の条件下なのでブドウは追いかけられるような生育を強制されているの

ではないかと思えた。2日に1度の糖度上昇はブドウにとって苛酷な労働ではあるまいか。

新疆のブドウは一般的に巻蔓が極めて丈夫な点の特徴である。太い、硬い未登熟のままでも非常に硬く、日本の同じ品種の巻蔓の2倍ほどの太さがある。さらにもう一つの特徴は種子が未熟でも糖度が高いことだ。主枝が硬核期を迎えた後急に糖度が上がるのが普通であるのに、新疆のブドウは糖度が20~23度あっても種子は青みを帯びた未成熟のままなのである。だから糖度が17~20度くらいある果房の種子に青みが残り噛むと硬さは感じられない。糖度の上昇と主枝の成熟とは比例しないようだ。

リースリング、セミヨンなどは日本の栽培では成熟すると果皮が柔らかくなり、内部組織が崩壊していることが普通であるのに、新疆ではそういうことはなく噛むとプリッという感触であり、い



第2図 生育に伴う糖と酸の変化。

かにも細胞が活性化していることを知らされる。しかもその糖度は日本よりも5~8度も高いのである。そして酸は落ちにくい。結果枝に着生する果房の位置は貴部から1~2節あるいは基部にも着く。こうした現象は日本では見られない。ヨーロッパでもアメリカでも見られない。カベルネ・ソービニオンはもともと果房が着きやすい品種であるが、新疆のカベルネ・ソービニオンは5房あるいはそれ以上着く。おまけにその枝の先端付近には開花中の花穂が幾つも着くのである。3~4番果なのだ。この花穂が収穫時には一緒に混じる。混じっても最初の果房とは大きさに変わりないので選別し難い。こうした現象はカベルネ・ソービニオンだけではない。

吐魯番というブドウ栽培の歴史古いところがある。新疆の南疆に当たるところで砂漠のなかの都市というところだ。この吐魯番には大粒無核白という品種があってレーズンの原料となる。レーズンのなかではこの吐魯番産のものはトルコ、ギリシャ、アメリカ産などに比べて新鮮味があり、青みがあり品質は他国の追随を許さないものがある。しかし問題もある。販売されるレーズンに小果梗がついたままになっているのが混じる。これが問題なのだ。レーズンをそのまま食べるとこの小果梗が口のなかで邪魔になるのだ。ペッと吐き出すことが嫌われる。僅か1~2mmの長さであっても小果梗が着いたままでは困る。これを回避するのは収穫管理技術でいかようにもなるのに、そしてそのことは知っているのに行わない。知っているてもやらない、ということが問題なのだ。

管理技術

現地の技術者、特に50~60歳代以上はロシアで教育を受けた人も多く、ブドウ栽培の知識は充分に持っている。彼らは一様に『管理が大事だ』という。そういう認識は高い。しかし前述したように、蔓の生育管理は放任に近く数本一緒に縛りし、摘心作業は年間7回~12回も行うので改善の要がある、と言いながら実際は何もしない。レーズンも同じだ。小果梗が果房に着いているのは成熟前

に収穫してしまうのが原因だということを知っている。

更に、あとから開花する花穂を収穫時に一緒に収穫してしまうことは何ら疑義を感じていない。いわゆる2番果、3番果を1番果と一緒に収穫することは全体の糖度を下げるばかりでなく、品質も下げることになるのに関心を払う素振りが見えない。扇状に枝を出す栽培様式は問題ないが、枝数が多すぎて始末に終えなくしてしまう。空枝(果房の着かない枝)も多いのに伸びるに任せっぱなしというわけだ。

しかし個々の技術がいい加減で品質の整一性に欠けるとは言っても、新疆のブドウは天候に恵まれ生育が良好なために極端に評価を下げるまでには至らないと思っている。私には折角のすばらしい品質のものをわざわざ悪くしているようにしか思えなかった。特に醸造原料として考えた場合は「もったいないことをしている」と思えた次第である。

品種数

新疆には筆者の調査では約300の品種がある。ヨーロッパ、ロシア、アメリカ、日本などから輸入されたもの、国内移動(主として北京、山東省などから)のものがあるが、中国名で表示された表音文字を当てているので解明し難い品種もある。日本から輸入された(経緯が不明)品種は多くはないが、現地の雑誌には『日本の品種にはウイルス病が多い』という記載が気にかかった。個人的に輸入したのではないかと思ったが、これには理由が考えられる。現地からの個人的な要請に応じて持参したのではないかと思えるフシが多いのだ。植物検査を受けて輸入したものであれば問題ないが、密輸に等しい持参方法で現地に届いた苗木(もしくは枝)ではあるまいか、と思われることが多い。現地の人の希望に「おもねる」ような理由から持参することは厳に謹まなければならない。いずれにしても現地にはかなり多くの品種が存在している。